

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	130人	・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	25人
・多発性硬化症	141人	・ウェグナー肉芽腫症	19人
・重症筋無力症	159人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	35人
・全身性エリテマトーデス	1,023人	・多系統萎縮症	50人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	18人
・再生不良性貧血	48人	・膿疱性乾癬	5人
・サルコイドーシス	187人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・筋萎縮性側索硬化症	16人	・原発性胆汁性肝硬変	50人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	370人	・重症急性膵炎	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	104人	・特発性大腿骨頭壊死症	41人
・結節性動脈周囲炎	55人	・混合性結合組織病	172人
・潰瘍性大腸炎	435人	・原発性免疫不全症候群	6人
・大動脈炎症候群	43人	・特発性間質性肺炎	13人
・ビュルガー病	29人	・網膜色素変性症	91人
・天疱瘡	55人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	54人	・原発性肺高血圧症	5人
・クローン病	72人	・神経線維腫症	14人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	91人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	934人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	1人
・アミロイドーシス	7人	・ライゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	2人
・後縦靭帯骨化症	34人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

合計

4,540人

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<p>① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</p> <p>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</p>		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	<p>1週間に 2～3回程度</p> <p>1カ月に 10～12回程度</p>		
剖検の状況	剖検症例数	85 例	剖検率 14.2 %

## 1 研究費補助等の実績

	研究科題名	氏名	所属講座等	19年度	補助機関
1	Brn4による間葉系幹細胞からの蝸牛線維細胞への分化誘導と難聴の再生医学への応用	中澤 詠子	耳鼻咽喉科学 浦安	1,900,000	補 文部科学省
2	多発性嚢胞性肺疾患におけるBHD遺伝子解析 一嚢胞形成の分子病因的検討	瀬山 邦明	呼吸器内科学	900,000	補 文部科学省
3	高脂肪食負荷時における膵β細胞オートファジー機構の解析	綿田 裕孝	代謝内分泌学	2,700,000	補 文部科学省
4	膵β細胞におけるオートファジー機構の重要性と糖尿病発症への関与の検討	河盛 隆造	代謝内分泌学	1,600,000	補 文部科学省
5	パーキンソン病における蛋白分解系の関与	服部 信孝	神経学	3,100,000	補 文部科学省
6	レーザーを用いたマウス内耳への低侵襲遺伝子導入法の確立	原 亜希子	耳鼻咽喉科学	1,300,000	補 文部科学省
7	難聴遺伝子改変技術を利用したコルチ器の三次元構築の分子基盤の解明	池田 勝久	耳鼻咽喉科学	1,900,000	補 文部科学省
8	虚血ニッチの形成過程とその生理学的意義の解明	服部 浩一	アトピーセンター	3,900,000	補 文部科学省
9	パーキンソン病における神経細胞死の機序解明とその防御	水野 美邦	老研センター	17,300,000	補 文部科学省
10	細胞外マトリックス分子によるシグナル局在化の分子機構の解明	平澤 恵理	老研センター	16,800,000	補 文部科学省
11	オステオポンチンは間質性肺炎の新規マーカーになりうるか?	平間 未知大	呼吸器内科学	1,300,000	補 文部科学省
12	肺サルコイドーシスの病態における性ホルモンの役割と治療への試み	石渡 俊次	呼吸器内科学	1,700,000	補 文部科学省
13	生体肝移植における過小グラフトの血行動態に関する臨床研究	川崎 誠治	肝胆膵外科学	2,500,000	補 文部科学省
14	鼓膜留置型の振動子を用いた先進的電磁補聴システムの開発	一針 幸子	耳鼻咽喉科学	1,200,000	補 文部科学省
15	気導・骨導ハイブリッド補聴器の開発	小宮 尚	耳鼻咽喉科学	1,900,000	補 文部科学省
16	消化器発癌における脂質と酸化ストレスの役割の解明 遺伝子改変動物モデルを用いて	渡辺 純夫	消化器内科学	7,200,000	補 文部科学省
17	肝線維化の制御機構におけるBMPの作用機序の解明	塚田 重城	消化器内科学	1,000,000	補 文部科学省
18	薬物性肝障害・薬剤治療抵抗性発症のメカニズムの解明ーインスリン抵抗性の関与ー	今 一義	消化器内科学	700,000	補 文部科学省
19	慢性C型肝炎におけるオートファジーの生理学的意義の解明	山科 俊平	消化器内科学	1,300,000	補 文部科学省
20	表面型大腸腫瘍に関する分子遺伝学的研究(BHD変異を中心に)	坂本 直人	消化器内科学	1,000,000	補 文部科学省
21	肺リンパ脈管筋腫症(LAM)におけるLAM細胞の増殖および病変形成機構の解明	瀬山 邦明	呼吸器内科学	4,100,000	補 文部科学省
22	慢性低酸素曝露ハムスターの肺高血圧進展におけるキマーゼの関与	長岡 鉄太郎	呼吸器内科学	1,600,000	補 文部科学省
23	肥満候補遺伝子Azgp1を用いた抗肥満創薬の試み	合田 朋仁	腎臓内科学	1,800,000	補 文部科学省
24	MRS, MRIを用いた新規骨格筋代謝マーカーの確立とその応用	田村 好史	代謝内分泌学	1,700,000	補 文部科学省
25	新しいインスリン抵抗性発症因子としての"脂肪感受性"の規定因子の解明	河盛 隆造	代謝内分泌学	11,800,000	補 文部科学省
26	血糖変動による動脈硬化のメカニズム	東 浩介	代謝内分泌学	1,700,000	補 文部科学省
27	統合失調症患者における反応競合下の前頭葉の活性に関する事象関連fMRIを用いた検討	福田 麻由子	精神医学	700,000	補 文部科学省
28	休職中のうつ病患者に対する職場復帰援助プログラムのニーズと効果に関する研究	酒井 佳永	精神医学 越谷	800,000	補 文部科学省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

	研究科題名	氏名	所属講座等	19年度	補助機関
29	家族性パーキンソン病の原因遺伝子産物の共通機構の解明と新規原因遺伝子の同定	服部 信孝	神経学	7,600,000	補 文部科学省
30	解糖酵素アルドラーゼとリン酸化タウとの相互作用の解析	志村 秀樹	神経学	1,800,000	補 文部科学省
31	慢性脳虚血におけるオリゴデンドロサイトの再生と機能回復の役割に関する研究	田中 亮太	神経学	1,500,000	補 文部科学省
32	未熟児におけるエリスロポイエチン製剤による酸化ストレス軽減作用についての検討	東海林 宏道	小児科学	800,000	補 文部科学省
33	胸腺腫・胸腺癌におけるCD44v6発現とその腫瘍マーカーとしての有用性の検討	園部 聡	呼吸器外科学	1,700,000	補 文部科学省
34	胸膜中皮腫の腫瘍マーカーの検討	塩見 和	呼吸器外科学	1,700,000	補 文部科学省
35	軟骨細胞外基質パルカンの椎体・椎間板形成における分子機構の解明	石島 旨章	整形外科	2,000,000	補 文部科学省
36	ダリエ病モデルマウスの作成と皮膚カルシウムポンプ病の病態解明	黛 暢恭	皮膚科学	1,600,000	補 文部科学省
37	スポーツビジョン検査と精密眼球運動の関連の検討	工藤 大介	眼科学	800,000	補 文部科学省
38	Gjb2マウスを用いたKイオン・リサイクリングの分子機構の解明	戸田 恵	耳鼻咽喉科学	1,200,000	補 文部科学省
39	難聴遺伝子GJB2 KOマウスにおける蝸牛障害のナノスケールの解析	嶋 将晃	耳鼻咽喉科学	1,200,000	補 文部科学省
40	GJB2遺伝子保因者における歪成分耳音響放射障害の分子メカニズム	中澤 麻美	耳鼻咽喉科学 浦安	1,900,000	補 文部科学省
41	甲状腺腫瘍におけるNiban遺伝子発現の解析と臨床的意義の検討	松本 文彦	耳鼻咽喉科学	1,900,000	補 文部科学省
42	卵巣癌におけるCdc25Aの役割について	寺尾 泰久	産婦人科学	500,000	補 文部科学省
43	マイクロサンプリングプローブによる肺上皮被覆液の解析－亜酸化窒素を中心として－	熊倉 誠一郎	麻酔科・ペインクリニック講座 練馬	2,300,000	補 文部科学省
44	腫瘍随伴マクロファージによる血管新生機構を標的とした乳癌治療の開発と臨床応用	廣田 聡子	輸血学	1,300,000	補 文部科学省
45	上皮組織が産生する殺菌物質のセラチノサイトに対する作用	ニョソバフランソワ	アトピーセンター	1,300,000	補 文部科学省
46	マスト細胞機能を制御する転写調節因子の解析とアトピー性疾患への関わり	中野 信浩	アトピーセンター	1,500,000	補 文部科学省
47	オステオポンチンを分子標的とした悪性中皮腫の病態解明と治療への応用	高橋 和久	呼吸器内科学	1,800,000	補 日本学術振興会
48	SLE発症におけるDNA転写統御機構異常の重要性－新たな治療戦略への展望－	関川 巖	膠原病内科学	700,000	補 日本学術振興会
49	インドシアニンググリーン－金ナノ粒子結合体を用いた血管内病変の診断・治療技術開発	守本 祐司	脳神経外科学	2,900,000	補 日本学術振興会
50	自家骨髄間質細胞を使った神経膠芽腫治療法の開発	森 健太郎	脳神経外科学 静岡	1,800,000	補 日本学術振興会
51	リンパ脈管筋腫症細胞集塊における細胞接着機構の解明とその治療戦略への応用	熊坂 利夫	人体病理診断学	2,100,000	補 日本学術振興会
52	胃粘膜傷害における蛋白質レベルでのイニシャルイベント－ポストゲノムの病態－	大高 道郎	消化器内科学	1,900,000	補 日本学術振興会
53	メタボリックシンドローム関連肝疾患の病態進展機序の解析および実験治療アプローチ	池嶋 健一	消化器内科学	2,400,000	補 日本学術振興会
54	Mass spectrometryを用いたIgA腎症の原因抗原の解明	鈴木 祐介	腎臓内科学	1,500,000	補 日本学術振興会
55	糸球体IgA沈着におけるTh2型粘膜免疫反応の役割	富野 康日己	腎臓内科学	1,000,000	補 日本学術振興会
56	IgA腎症における糖鎖不全IgA1産生に対する黄色ブドウ球菌膜蛋白抗原の関与	清水 芳男	腎臓内科学	1,306,637	補 日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。